

奨励賞



設計者

岸下真理

■ 大阪府建築士会、Atelier KISHISHITA + Man*go design

事務所

大阪市中央区道修町

日本圧着端子製造株式会社

構造・階数

鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート造
地上8階建て、地下2階

敷地面積

1,226.16㎡

建築面積

939.01㎡

延床面積

8,245.23㎡

竣工

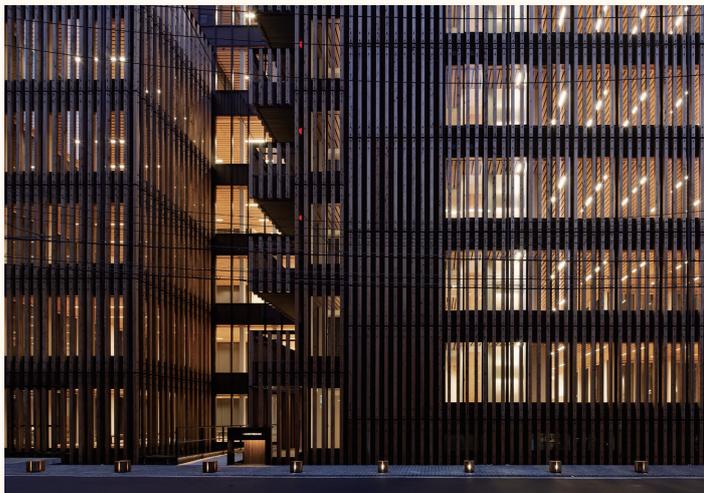
平成 25 年 6 月 18 日



A



B



C



D

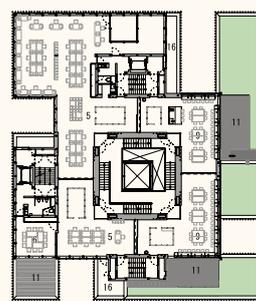
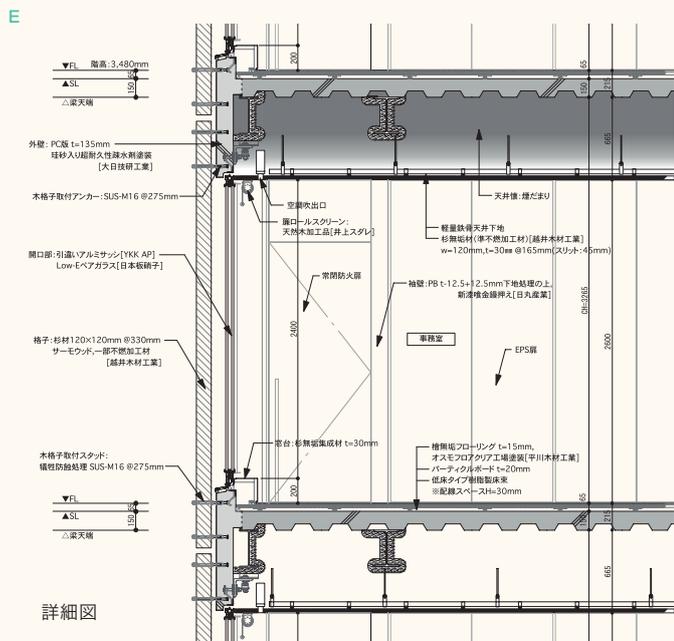
選評

大阪という都市の中心部の空洞化に着目し、土地を獲得し、その土地に建てる建築をコンペティションとし、結果、海外在住の日本人実業家が実現した建築である。若い建築家たちもよくそのクライアントの、いささかエキゾチックなと思われる意欲によく応えようとした。

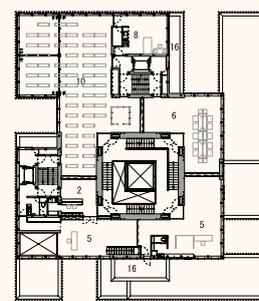
ここでエキゾチックとあえて述べるのは、計画全体の与件とも考えられる、クライアントの意欲そのものに関してである。力強い、と評するよりも、いささか荒い外装の、化粧としての木材の多用は、これはエキゾチシズムとしか言い様がない。建築の内

外に木が、じつに多用されている。面白く感じたのは、若い設計者たちがどうやら木という素材に自然の大きな生産消費のサイクルを感得しているというよりも、やはりその表面性を視ているらしき、つまりはエキゾチシズムなのである。小さなビルを4つドライに配列した平面計画は工夫の常識らしきを覆して、面白くもあり、いささか初歩的な工夫不足の感もあり、これもまた、経済力よっての力まかせのエキゾチシズムの産物である。若い設計者たちはそれでもよく健闘したと思う。

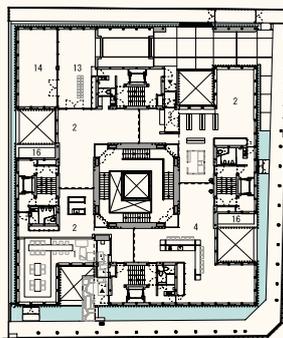
(石山修武)



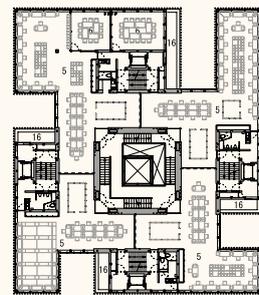
6階平面図



7階平面図



1階平面図



4/5階平面図

- A 前面道路より見る。外装の木格子には国産の杉材を使用している
 - B 中央階段室。階段が硝子の筒の周りに二重螺旋を描く
 - C 外観(夕景)。木格子越しに室内のあかりが浮かび上がる
 - D エントランスホール。来客との打合せスペースを兼ねている
 - E 7階会議室。内装にも国産の木材を多用して、暖かみのある空間に設えている
- 写真撮影…絹巻 豊

- 1. エントランス
- 2. ホール
- 3. 通用口
- 4. ラウンジ
- 5. 事務室
- 6. 会議室
- 7. 更衣室
- 8. 休憩室
- 9. 食堂
- 10. プレゼンルーム
- 11. 屋上テラス
- 12. ドライエリア
- 13. 作業室
- 14. 倉庫
- 15. 駐車場
- 16. バルコニー